

ハナシノブの鮮度保持

農業研究センター 高原農業研究所

研究のねらい

ハナシノブは小花の寿命が短く早期に落下する欠点がある。そこで、鮮度保持を図るためカネシオン、スイトピ等において花もち延長の目的で使用されているSTSの効果について検討した。

研究の成果

1. STSはハナシノブの花もち延長に高い効果があり、0.25mMの1時間処理または0.04mMの12時間処理が適する。この場合の花もち日数は無処理の1.7倍となり、Agの吸収量は、切花1本当り0.20~0.25 μ mol、切花1g当り12~16nmolである。
2. 処理時点において開花している小花に対しては効果は低い。
3. STS処理後5で輸送すれば切花品質に全く影響がない。
4. 過剰のAgを吸収すると葉に薬害を生じるので、処理濃度、処理時間は厳密に守る必要がある。



写真 ハナシノブの花もちへのSTSの効果

第1表 STS濃度と花もち日数、Ag吸収量及び障害発生

処理時間 (処理日)	濃度	花もち z 日数	Ag 吸収量		障害
			切花 1 本当たり	切花 1 g 当たり	
時間	m M	日	$\mu\text{mol}/\text{本}$	nmol/g	
1 (3月25日)	4.0	19.2by	4.67	243	+ x
	2.0	24.0a	1.47	99	+
	1.0	24.3a	0.97	64	+
	0.5	24.3a	0.47	27	±
	0.25	23.3a	0.25	16	-
	0.125	21.3ab	0.13	8	-
12 (5月7日)	0	13.3c			
	0.16	16.7ab	0.86	51	+
	0.08	17.5a	0.40	23	±
	0.04	16.0ab	0.20	12	-
	0.02	14.7ab	0.11	6	-
	0.01	13.8b	0.06	3	-
	0	9.5c			

z : 落花または枯死した小花が 20 個以上となるまでの日数
 y : Duncanの多重検定により異なる文字間に 5%レベルで有意差有り
 z : + ; 著しい障害、± ; 軽微な障害、- ; 障害無し